

## トビロヤンマを2015年9月に長崎市で記録

樋口一成<sup>1)</sup>・田添大青<sup>2)</sup>・田添陽向<sup>2)</sup>  
田添康介<sup>3)</sup>・田添みゆき<sup>3)</sup>

Record of *Anaciaeschna jaspidea* (Burmeister, 1839) in Nagasaki, Sept. 2015

Kazunari HIGUCHI<sup>1)</sup>, Taisei TAZOE<sup>2)</sup>, Hyuga TAZOE<sup>2)</sup>, Kosuke TAZOE<sup>3)</sup> and Miyuki TAZOE<sup>3)</sup>

### はじめに

トビロヤンマ *Anaciaeschna jaspidea* (Burmeister, 1839) は、インド、東南アジア諸国、中国南部、台湾、オーストラリア北部、メラネシア、ミクロネシア、ポリネシア中央部のクック諸島まで、東洋熱帯に広く産する。日本国内の分布域はトカラ列島・中之島以南の南西諸島だが、小笠原諸島での一時発生記録もある(江平 2005, IUCN 2010, 尾園ら 2012)。

しかし本種は1990年代から日本国内で激減し、21世紀初頭の確実な棲息地は沖縄諸島・八重山諸島の一部に局限されている。環境省レッドリストでは2012年版より絶滅危惧IB類(EN)に掲載された(須田 2015 環境省 2015)。

また九州以北の本種の記録は従来2例知られていた。

一つは1993年の高知県中村市(現・四万十市)「トンボ王国」における例で、8/28に同属種マルタンヤンマ *A. martini* (Selys, 1897) に混じり黄昏飛翔していた1匹が採集された(杉村 1993, トンボ王国 2009)。もう一つは2000年秋に静岡市で一時発生した例で、9/25に1匹が撮影されたのを皮切りに10/1~11/5に少なくとも8匹4匹が採集され、目撃例も多く残された。草丈の高い湿地における秋の午後の活動や産卵も観察されたが、12月には姿を消したとされる(伴野 2001, 江間・福井 2001, 福井・江間 2001)。

今回筆者らは長崎県で本種を確認したので報告する。九州島における初記録でもある。

### 経緯

著者の一人の田添大青は、小学校1年生だった2015



図1 長崎市で採集されたトビロヤンマ 標本背面(左)側面(右)。田添大青採集

<sup>1)</sup> 〒852 8035 長崎市油木町7-2 長崎市科学館 starship@nagasaki-city.ed.jp

<sup>2)</sup> 〒851 2204 長崎市三重町1125 長崎市立三重小学校

<sup>3)</sup> 長崎市

年9月中旬～下旬、長崎市三重町の通学路を15:30頃に下校中、弱って草の上にいるトンボ1匹を採集した(図1)。

翌2016年、小学校2年生の夏休み自由研究で、双子の陽向、保護者の康介・みゆき4名での共同研究「こん虫ひょう本と作成ノート」をまとめ、当標本含む昆虫標本18種44点、セミ抜け殻標本2種32点、研究ノート1冊を小学校へ提出した。

この研究が校内優秀作品に選ばれ、10月上旬に長崎市科学館で開催された「長崎市小・中学校科学教育展」へ展示された。

この時点で当標本の名札は「トンボのなかま」(未同定)だったが、著者の一人の樋口が標本を視認、トビイロヤンマと同定した。

標本は、腹長48mm、後翅長41mm。前額～複眼前部を損傷していたが他に目立つ傷はなく、翅はほぼ透明だった。性成熟した本種の翅は黄色を呈すので、若い個体とみられる。胸部～腹部前半側面は広く黄色で胸部を1本の太い褐色帯が斜めに通過、第1腹節側面は太い褐色帯がなく、後胸～第3腹節側面は水色部分もあった。各腹節側面に黄白色斑、第8～第10腹節背面に各1対の黄白色斑があった(江平 2005, 朝比奈・枝 2008, 尾園ら 2012)。

## 考 察

採集地はトビイロヤンマ棲息地の沖縄諸島・伊平屋島から北へ約660km、北限とされる中之島から北へ約330kmである。飛来記録とみられるが、ヤゴが水草の流通に乗って運ばれたと考えられるリュウキュウベニイトトンボ *Ceragrion auranticum ryukyuanum* Asahina, 1967の発生例もあり(苅部 2007)、同様の人為的移入の可能性もゼロではない。

本種は広く分布するが迷入記録は少ない点から移動性は弱く、長距離飛翔は台風など強い外部刺激によるとみられる。2015年に九州へ影響があった台風は6号(5/12 種子島近海で消滅)、9号(7/10～12 東シナ海縦断)、12号(7/26 長崎県佐世保付近上陸)、15号(8/25 熊本県上陸)で、どれも本種分布域のミクロネシア、フィリピン、台湾、南西諸島などを通過していた(気象庁 2016)。特に9号と12号で九州に強い南風が吹いており、台風由来ならばこれらの可能性が高い。

また当標本が若く損傷も少ない点、本種は卵期間11日・幼虫期間41日の報告がある点(関西トンボ談話会, 1984)、採集地3km以内に三重川流域、杉谷川流域、黒崎永田湿地自然公園など本種の発生に適する水田・湿地が多い点を見ると、周辺で一時発生していた可能

性がある。当個体が弱っていたのは頭部負傷、または羽化直後で動きが鈍かったと考えられる。

長崎県は温暖でアジア大陸に近い地理特性もあり、過去にオオギンヤンマ *Anax guttatus* (Burmeister, 1839)、スナアカネ *Sympetrum fonscolombii* (Sélys, 1840) など南方系・大陸系トンボ各種の飛来記録がある(池崎・中田 2007, 尾園ら 2012)。だが本種の記録は驚きであった。

## 謝 辞

自由研究のご指導・選定・ご連絡を頂いた長崎市立三重小学校の先生方、本報告にご指導・ご協力を頂いた青木典司(関西トンボ談話会)、福井順治(静岡昆虫同好会)、二橋亮(産業技術総合研究所)、苅部治紀(神奈川県立生命の星・地球博物館)、宮崎俊行(日本トンボ学会)、杉村光俊(公益社団法人トンボと自然を考える会)、池崎善博(長崎県生物学会理事)、田中清(長崎県立長崎北高等学校)、伊藤雅男(長崎バイオパーク)、大串俊太郎(一般財団法人九州環境管理協会)、水頭潤一(長崎市立蚊焼小学校)の各氏に厚く御礼申し上げます。

## 文 献

- 関西トンボ談話会 1984. 近畿のトンボ pp.170, 関西トンボ談話会.
- 杉村光俊 1993. トンボ王国特報 トンボ王国にトビイロヤンマ飛来. とんぼと文化(49): 12
- 伴野正志 2001. 静岡市麻機遊水地でトビイロヤンマを目撃・撮影. 駿河の昆虫(193): 5414
- 江間修司・福井順治 2001. 静岡市におけるトビイロヤンマの生態観察. 駿河の昆虫(193): 5415 5418
- 福井順治・江間修司 2001. 静岡市でトビイロヤンマを採集. TOMBO(43): 40. 日本トンボ学会
- 江平憲治 2005. 福田晴夫ほか. 昆虫の図鑑 採集と標本の作り方 pp.238, 南方新社.
- 苅部治紀 2007. 神奈川県横浜市で発生したリュウキュウベニイトトンボについて. 月刊むし(434): 42
- 池崎善博・中田昭義 2007. 長崎県には何種のトンボがいるか. こがねむし(72): 45 48
- 朝比奈正二郎・枝重夫 2008. 平嶋義宏・森本桂監修. 新訂原色昆虫大図鑑 pp.844, 北隆館.
- トンボ王国 2009. 公益社団法人トンボと自然を考える会「トンボ王国トンボ図鑑」  
<http://tombozukan.blog.66.fc2.com/?mode=m&no=30>  
(2017年2月1日確認).
- IUCN 2010. IUCN Red list

<http://www.iucnredlist.org/details/167168/0> (2017年2月1日確認).

尾園暁・川島逸郎・二橋亮 2012. 日本のトンボ. pp 532, 文一総合出版.

須田真一 2015. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編「レッドデータブック2014 5 昆虫類」pp 509, ぎょうせい.

環境省 2015. 「昆虫類レッドリスト(2015)」.

<https://www.env.go.jp/press/files/jp/28061.pdf> (2017年2月1日確認).

気象庁 2016. 「2015年(平成27年)の台風について(確定)」[http://www.jma.go.jp/jma/press/1512/21e/typhoon2015\\_kakutei.pdf](http://www.jma.go.jp/jma/press/1512/21e/typhoon2015_kakutei.pdf) (2017年2月1日確認).



第46回大会より